



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第169号

発行:2020年5月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

看護人生 これからの自分

～ 目配り・気配り・心配りをモットーに～

新中川病院 看護部長 江尻 徳子



本年4月に看護部長を拝命致しました。宜しくお願ひします。

看護人生41年、外科系の急性期を初め、小児・成人・精神と全科を経験してきました。患者さんが元気になる姿をみたり、喜ばれたり、感謝されたりするたびに元気を頂き、前向きに仕事に携わってきました。この経験が無駄なく今に活かしています。看護人生20年過ぎた頃、主任・師長代行の任につくようになりました。初めて機能評価を受ける、という経験をした時の部署は外来で中材・手術室も併せて任されました。日常業務が終わった後、毎日夜9時ごろまで評価される内容を一つひとつ確認しながら、足りない物品の請求、細菌検査をするための方法など手探りで整えながらマニュアルも作成していきました。無我夢中で取り組み、受審当日は、緊張しながら説明したこと今でも鮮明に覚えています。その後、師長として管理を任されるようになり、医療療養・介護の病棟の立ち上げや障害者雇用に向けて部署の立ち上げ、訪問看護など、与えられた職務を一生懸命、努めてきました。中でも障害者雇用については、鵬友会入職以前の話ですが、雇用義務制度において当時の職場で「改善の取り組みが見られず、このままでは病院名を公表する。」と勧告されました。何とかしなくては、と看護部で対応していく、ということになり、その責任者として任されることになりました。障害者とは身体的・知的・精神が対象者で一般の民間企業は従業員50人以上、従業員の2.0% (当時) を雇用し、障害者の職業の安定を図る、といったものでした。当時、6～7名不足しており、事務職と連携を取りながら雇用説明会を開催、8名ほど雇用することができました。その中、障害者職業生活相談員資格認定講習を受けました。障害者の方々を看護部でどのような業務に携わるか、介護職3名をコンシェルジュとして選任し、コンシェルジュ1人が障害者の方2～3人を受け持ち、環境整備・シーツ交換など中心に指導しながら一緒に行うこととしました。コンシェルジュとは密に情報交換しながら業務に携わっていただきました。コンシェルジュも一生懸命関わってくれ、障害者の方々が安

心して業務に携わり、1年振り返った時、1人の退職者も出なかったという結果が得られました。1年で土台を作り、「看護部」から「障害課(仮名)」として部署を立ち上げる方向になりました。病棟師長を15年、これまでに大事にしてきたことは職員がモチベーションを上げ、互いに尊重しながら仕事に携えられるような環境を整えることです。10人十色、悩みもそれぞれです。必要なときは時間を作り、一人ひとり、体当たりで関わってきました。人は桜梅桃李でそれぞれの持ち味が活かされるような人材育成に今後も取り組んでいきたいです。看護人生、振り返ると「辞めたい」と思ったことは1度もありません。今回、このような重責を任命していただいた時、自分を必要とっていただいたことに感謝し、また、全力で取り組もうと決意しました。

2019年12月、中国湖北省武漢市において肺炎の発生が複数報告され、後に新型コロナウイルス感染症として世界各国で調査、対応が進められました。当院はインフルエンザ感染予防策としてご家族の面会を5分として対応していましたが、クルーズ船からのコロナ発生で即、感染予防対策委員会緊急会議を設け、2月末にはご家族の面会禁止、外来患者の対応等々、感染予防策を講じ、事あるごとに話し合っております。4人部屋1室を感染部屋として3病棟準備し、入院して来られる患者さんをまずその部屋で観察していくように対策を立て、対応しています。いつ終息するのか見当がつかせませんが、やるべきことをやりながら、患者及び職員がコロナウイルスに罹患しないよう、職員一丸となって取り組んで参ります。

最後に福田院長が「管理というのは人を管理すると同時に自分も管理する。自分を管理したうえで人と話をしないといけない。自分の好き嫌いがあっても皆に行き届いた眼でちゃんと仕事をして、ここで働く楽しい、やりがいがある、という環境にすることが一番大事なこと」と言われていることを指標に、頑張ります。

新型コロナウイルス感染症って？

なぜこんなに大流行したの？

- ・ 新型ウイルスなので免疫が無い
- ・ 特効性のある抗ウイルス薬やワクチンが無い
- ・ 最長で約2週間と潜伏期間が長い
- ・ 無症状での感染もあり、他の人にうつしてしまうなどが原因とされます。

新型コロナが疑われる場合は？

<感染が疑われる症状>

- ①息苦しさ（呼吸困難）
- ②強いだるさ（倦怠感）
- ③高熱
- ④重症化しやすい方で、発熱や咳などの風邪症状がある場合
- ⑤上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合（症状が4日以上続く場合は必ずご相談ください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。）

重症化しやすい方！

高齢者。糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）などの基礎疾患がある方や透析を受けている方。免疫抑制剤や抗癌剤を用いている方。

上記の症状がある時は **帰国者・接触者相談センター**

TEL：045-664-7761（9：00～21：00）]にお電話にてご相談下さい。

*** 明らかな新型コロナ感染症が疑われる方は、当法人施設は感染症指定医療機関ではないため、現状では診察、検査、治療、全ての対応が出来ません。**

これまで何人の方が退院され、そのような方にはどのような治療が行われたの？

国内事例におけるPCR検査陽性者のうち、合計10,300名を超える方が退院しています（5月14日時点）。この新型コロナそのものに効く抗ウイルス薬はまだ確立していませんが、退院された方々は、ウイルスによる熱や咳などの症状の緩和を目指す治療（対症療法）を受けました。また、肺炎を起こした場合は、酸素投与や人工呼吸等を行うこともあります。【厚生労働省ホームページ参照】

感染を防ぐには

- ・ 手洗い
- ・ 咳エチケット
- ・ 室内換気
- ・ 3密（密閉、密集、密接）を避ける